

【平成28年度 行健小学校ストリートラグビー体験会活動報告書】

一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマ

理事 久保田彩乃

＜はじめに＞

一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマ（以下弊社と言う）は、平成24年1月より、震災以降の福島県民の多様な意見を世界へ発信しようと活動をスタートし、「震災・原発事故を風化させない」「多様な県民の声を発信していく」「福島の復興を後押しする」という3つの活動ミッションを達成するため、約5年間活動を続けて参りました。現在の主な活動事業は以下の5事業となっております。

- ① 福島県民へのインタビューとラジオ番組「Voice of Fukushima」制作・発信、インターネット上でのアーカイブ化活動
- ② 県内高齢者・避難者の生きがい作り・コミュニティ活性化のための歌声喫茶活動
- ③ 福島の魅力をこども目線で発見・発信する「こどもラジオ放送局」活動
- ④ 福島の今の情報を県内外で共有する「映画上映・意見交換」イベント活動
- ⑤ 子どもの運動不足解消と地域コミュニティ再生のためのストリートラグビー体験活動

この報告書では、平成28年度に郡山市立行健小学校を中心に行いました、事業⑤「子どもの運動不足解消と地域コミュニティ再生のためのストリートラグビー体験活動」について、福島の現状と活動内容報告、来年度にむけての総括を記載いたしました。

「ストリートラグビー体験活動事業」は、震災・原発事故以降、混乱の多い学校教育現場においての課題や子ども達への思いをお話頂いたことで、大きく前進いたしました。

平成23年の震災・原発事故以降、福島県内の子ども達の生活環境が大きく変わりました。その中でも特に、子ども達の成長に影響を及ぼしているのが「運動不足・肥満傾向」と「他世代間交流不足」です。

「運動不足・肥満傾向」に関しては、文部科学省による全国調査「学校保健統計調査」によりますと、平成24年度「肥満児傾向児」の出現率が、福島県の9歳児が全国で最も高い値を記録しております。その後、各種運動プログラムなどの実践により、「肥満児傾向」の出現率は毎年低下しているものの、平成28年度は全国5番目に高い値となっており、まだまだ福島の子どもの健全な成長に良い環境とは言えない状況です。

「他世代間交流不足」に関しては、福島県郡山市は古くから商業都市として栄え、転勤族などの出入りが多い土地柄ということに加え、核家族化や少子高齢化、母子家庭・父子家庭等の増加など、日本全国の多くの地域が抱える課題にも直面して参りました。それに

加えて平成23年の原発事故により、浜通り双葉郡地域からの転入者の受け皿としてもまた新たな課題を抱えることとなっています。古くからその土地に根づく人々と、災害をきっかけに新たに住まうこととなった人々の共存には、お互いを認め合い受け入れる力が必要なのです。現在、子ども達を地域全体で育てるコミュニティ再構築が急務となっている中において、これら複合的な地域課題を解決していくことが必要であると改めて感じています。

<ストリートラグビーの活用>

弊社ではインタビュー取材を通して上記の課題を認識し、福島復興に携わる一団体として、何か解決のための手段はないかと考えておりました。そこで一般社団法人ストリートラグビーアライアンスより提案頂いたのが「ストリートラグビー体験活動事業」です。この事業により、子ども達の運動不足解消・コミュニティ再生が同時並行で行っていただけるのではと考え、平成28年度から取り組ませて頂いて参りました。ストリートラグビーは、ラグビー日本代表選手らが考案した新しいスポーツです。平成31年ラグビーワールドカップ日本開催に向けて、ラグビーファン拡大のため元文部科学副大臣で現文部科学大臣補佐官の鈴木寛氏が代表理事を務める一般社団法人ストリートラグビーアライアンスが全国的に普及展開を行っております。ラグビーボールを使い、3対3の対戦形式で行うもので、

- ・握手で始まり握手で終わる
- ・タックルなし、タッチで攻守切り替え
- ・老若男女参加可能

というユニークかつ参加者全員が楽しめるルールを設け、これまで日本全国で、最年少は1才3ヶ月、最高齢は87才の方がプレーして参りました。

さらに、この団体の活動理念の一つに、「ストリートラグビー・シティー・アライアンス (STREET RUGBY CITY ALLIANCE)」があります。シティー・アライアンスとは、地域の有志によって運営される組織のことです。ストリートラグビーを介して街におけるコミュニティの創造や、まちづくりに貢献することを目的に理念を設けています。

(公式 HP より一部抜粋 <https://street-rugby.com/purpose/>)

一般社団法人ストリートラグビーアライアンスが掲げる活動理念が、弊社の福島での活動理念の一部と合致し、課題解決の一助になるのではとのことから、郡山市立行健小学校土屋光啓校長や、同学校元PTAで地域通学路の除染活動を行う行健除染ネットワークのメンバーの皆様を中心にお力をお借りし、平成28年度には3回の体験活動を実施いたしました。

<活動報告>

◇ 第1回 ◇

「ストリートラグビー体験会」 参加人数：約30名

日時：平成28年5月29日 10:00～12:00 場所：行健小学校体育館

(実施内容)

本事業初の体験会イベント。ストリートラグビーは室内でも実施可能であり、外で遊ぶことが難しい福島の現状においても開催可能ということを伝えるべく、体育館での開催といたしました。講師に一般社団法人ストリートラグビーアライアンスから副代表理事の小山裕昭氏を迎え、前半は準備運動を兼ねたグループワーク、中盤でラグビーボールを使ったプログラムとルールの共有、そして後半は対戦形式での実践とし、合計2時間の実施となりました。同学校在校生の他、近隣の学校児童や保護者にもご参加を頂き、最年少1歳半、最年長50代が同じチームを組んだり、在校生も上級生が下級生に声をかけたりしながらチーム連携し、それぞれがトライする喜びを感じることができていた印象です。

(当日の様子)



※この当日は、NHK 福島放送局、福島民友新聞より取材を頂きました。（福島民友新聞、当日記事データを資料として添付いたします。）

◇ 第2回 ◇

「ストリートラグビー体験&バーベキュー交流会」 参加人数：約50名
日時：平成28年9月3日、10:00～14:30 場所：行健小学校グラウンド
(実施内容)

2回目は、校庭をお借りしての実施といたしました。震災から5年が経過した現在、県内の多くの小学校では震災と変わらず屋外活動が実施されているという現状を踏まえ、子ども達にとって屋外活動は必要であると判断したためです。そのため、元同小学校PTAで地域住民としてこの活動にご協力を頂いている行健除染ネットワークより、校庭と学校周辺の放射線量測定マップを提供頂き、受付付近にパネル設置をすることで、参加児童の保護者等に校庭と学校周辺の放射線数値を改めて周知いたしました。

また、地元の福島県立安積高校ラグビー部員20名にも参加協力を呼びかけ、子ども達が楽しくプレーするためのガイドプレーヤーとして参加してもらいました。ガイドプレーヤーで児童と一緒にプレーすることで、高校生たちにとっては社会貢献活動への参加を促し、ボランティア精神を養う機会といたしました。子ども達にとっては、兄弟以外の「少し年上のお兄さんたち」と接することで、世代を超えて協働することの楽しさや身体能力の差を感じるとともに、運動能力向上への意欲を持ってもらう機会となりました。

さらに体験会に加え、皆様にご協力を頂き、バーベキューをしながらの交流会も実施。食材の提供には(株)ヨークベニマル八山田店や、(株)ゼネボホールディングスにご尽力を頂きました。十分に体を動かし交流をした高校生20名と約20名の子ども達は、食事を取りながらさらにコミュニケーションを図り、食後は校庭のブランコで一緒になって遊ぶなどに発展しました。体を動かすと同時に、食事による交流促進もコミュニティ再生のための有効な手段であると改めて実感する機会となりました。

(当日の様子)



◇ 第3回 ◇

「体育授業でストリートラグビー体験」

日時：①平成29年1月31日15時40分～16時50分

②平成29年2月1日、10時～12時30分

場所：行健小学校体育館

参加人数：①同小学校先生方約30名、②5学年全クラス約107名

(実施内容)

第3回目は5年生体育の授業として実施しました。授業に取り入れる目的は、ストリートラグビーを①先生との共有、②多くの児童との共有③同小学校学区地域に根付かせるということです。弊社は過去2回の体験会を通し、子ども達の運動能力向上や参加者同士のコミュニケーション促進に、ストリートラグビーは有効であると確信し、この活動をより多くの地域住民に知ってもらうことを次なる課題といたしました。

今回は、一般社団法人ストリートラグビーアライアンス副代表理事の大西一平氏（元神戸製鋼ラグビー部7連覇時代の主将）を迎え、授業前日に先生へのレクチャーを行い、ルールや理念の共有を図りました。授業は2クラスごとに実施。前半からボールに触れさせ、実践形式でルールなどを覚えてもらい、全児童に対戦形式まで体験してもらいました。レクチャー終了後先生へアンケートを実施し、「子ども達の集中力や運動能力を鍛えるのに良いプログラムだと感じた」「運動が苦手な自分でも楽しく取り組むことができた」「これからは体育の時間等で取り組めるよう、ルールなどへの理解を深めたい」などの回答を頂くことができました。授業実施後には、「運動が苦手な普段の体育の授業に積極的ではない児童が笑顔で取り組んでいた」と感想を頂き、今後も継続してこの活動事業を行っていくために大きく前進した回となりました。改めて、お忙しい時間を割いてご参加・ご協力くださった同小学校先生方に感謝を申し上げます。

(当日の様子)

① 先生へのレクチャー



② 児童への授業



※ 2月1日の様子は、朝日新聞、日本経済新聞、福島民報、福島民友、福島テレビに取り上げて頂きました。（資料として朝日新聞、日本経済新聞、福島民報、福島民友記事を別紙添付いたします。）

＜総括＞

平成28年度は、弊社のこの事業目的である「子ども達の運動不足解消」「コミュニティ再生」のためのスタートアップの年となりました。体を動かしコミュニケーションを図り、瞬発力や集中力を持って取り組むストリートラグビーは、スポーツの枠を越えて、地域住民が他世代で協働することの重要性を実感させてくれるコンテンツとして、この福島県の課題解決に必要なものであると実感いたしました。

ストリートラグビーに必要な以下の動きは、人と人とが共に生きていく上で重要な能力を養うことができます。

- ・味方にパスを出す
- ・敵を引きつけ味方を先に進ませる
- ・味方がパスを出しやすいところに動く

⇒空間認知能力、先を読み行動する力、連携し目標を達成する力、相手の要求を察知する力

ストリートラグビーを楽しむために必要な以下のルールは、多様性が求められる社会で豊かに生きるための心を養うことができます。

- ・他世代でチームを組む
- ・弱者に合わせた動きをする
- ・全員がトライする喜びを味わう

⇒他者を思いやる心、他者への寛容性、人間の多様性自覚、達成感、満足感、自己肯定感

近年、教育環境がさまざま変化していく中においても、子ども達が健全に成長していくために必要な要素は昔も今も変わりません。そして、震災・原発事故により、福島県民は特異な環境下で子育てをしなければならなくなったと感じる人が多いかもしれませんが、一部避難指示継続中の地域を除いては、これまでの生活にほぼ戻りつつある段階です。そのような中で学校と地域が連携し、地域全体で子どもを育てていく必要性は、福島県だけでなく日本全国に通じる課題となっています。さまざまな課題が絡み合った福島は、それら一つ一つを丁寧にはぐし、解決への道しるべを作っていくことが重要です。世代を超えてのストリートラグビー体験活動は、このさまざまな課題を総合的に解決するためのきっかけ作りになり得ます。

弊社が福島県内で解決したいと考える2つの課題「子ども達の運動不足解消」「コミュニティ再生」に対して、このストリートラグビー体験活動は、イベント的に一度や二度実施したところで上記課題を解決することはできません。平成29年度は、行健小学校を中心とし、富久山地域のより多くの住民のみなさんにストリートラグビーを体験して頂くことに重点を置いて活動をして参ります。子ども達が学校の休み時間や放課後に、気軽にストリートラグビーを遊びに取り入れる環境作りをしていくと同時に、地域住民がストリートラグビーを楽しみに学校に集まる、という環境作りも考えて参ります。